旭川文学資料友の会

友の会通信　第13号

発行・NPO法人 旭川文学資料友の会
〒070-0044
旭川市常磐公園旭川市常磐館内
TEL 0166-22-3310
FAX 0166-22-3334

平成26年度 特定非営利活動法人「旭川文学資料友の会」定期総会を開催

平成26年度の定期総会を終えて

旭川文学資料友の会事務局長

山﨑 則明

5月10日午後1時半から、旭川文学資料館の第二展示室において定期総会を開催しました。

当日の会員総数は２０２名で、出席者と委任状との合計は１２４名となり、総会は成立しました。最初に、菅野会長の挨拶の後、来賓の谷口市教育委員会文化振興課長から挨拶を頂き、議長に三原一仁さん、議事録署名人に佐藤比左良氏、森内伝氏らを選出し、総会議事に入りました。

沓澤事務局次長から平成25年度の事業報告を行いましたが、その中で、国際啄木学会の開催に合わせて自主企画展「旭川と啄木展」を開催し、学会に出席された方が多く来られたことや、旭川文学資料展「～北の情緒・詩と版画～詩人 下村保太郎展」を開催し、下村保太郎氏長男の下村朔朗氏と東延江氏との対談を行いましたが、その際にはるばる大阪から保太郎氏のお子様が来られたことなどを報告いたしました。

また、年間の来館者数が２千名余りと、多数の方々に来ていただいたこと、協賛金・寄付金及び図書等の寄贈のご紹介を行いました。

特に旭川ケーブルテレビ株式会社様から今回３回目となる資料の寄贈をいただいておりますが、その中には寺田政明の装丁による雑誌「ツバサ」(小熊秀雄の「鐵の魔女」収載)など大変貴重な資料が含まれていることを、申し添えておきます。

その後、水下理事が決算報告を行い、異議なく承認をいただきました。

次に、西川監事から、適正に処理されている旨の監査報告をいただきました。

平成26年度の事業計画と予算については、原案のとおり決めて頂きましたが、今年度は井上靖記念館の指定管理業務を市から受託したことから、年間予算が従来と比べて非常に多くなっています。

井上靖記念館は井上靖が旭川で生まれたことを記念して、平成５年７月24日に開館し、井上靖の生涯を紹介する貴重な資料を展示しており、平成24年５月には、東京都世田谷区にあった井上靖邸の書斎・応接間を移転し、当時のままに再現し展示しています。

この記念館は開館以来、市教育委員会が管理・運営を行ってきましたが、この度、資料館の運営受託業務とは異なり、今後５年間、友の会が一定の管理権原を持ちながら施設運営を行うもので、施設の管理、各種企画展や普及事業等の開催をすることになりました。

記念館の主な事業としては、現在開催中の「井上靖 人と文学Ⅴ-『闘牛』『猟銃』の世界」展や、旭川文学資料館との連携企画展として「井上靖 初出掲載誌」展等の開催、企画展の関連事業として井上靖講座の開催、普及事業として各種読書会やミニコンサート、茶会の開催、芦別、深川方面の歌碑・句碑を巡る文学散歩の実施、そして青少年エッセーコンクールの実施など、数多くの事業を計画しています。

また、資料館の事業としては、５月末まで開催していた自主企画展「詩と絵 詩人 東延江展」、委託企画展「旭川ゆかりの詩人 鈴木政輝展」、井上靖記念館との連携企画展として「井上靖 初出掲載誌展」等について計画しており、両館の事業計画について承認をいただきました。

役員については、任期がまだありますので、改選はありませんでしたが、西川監事が都合により退任の申出がありましたので、その後任として阿部清会員が新監事に推薦され、異議なく承認されました。

最後になりますが、友の会が二つの施設を運営していくことになりますので、今後とも、会員の皆様方のご支援、ご協力を、よろしくお願い申し上げます。

☆旭川文学資料館・企画展☆

「旭川ゆかりの詩人 鈴木政輝 展」を開催します！ 会期：6月20日(金)～9月20日(土)

※6／28(土)13時30分より、鈴木政輝ご息女 石田富美子氏による講演と、友の会会員有志による鈴木政輝作品の朗読を行います。お誘いあわせの上、是非ご参加ください！

鈴木政輝（昭和 54.12.16）

父、鈴木政輝のこと

石田 富美子
〈東京〉

この度旭川文学資料館が父鈴木政輝の回顧展を開催してくださることになり娘の私として思いも掛けなかったことであり本当に嬉しく感謝致しております。

没後32年も過ぎ父の生前をご存知の方も少なくなっております。資料も散逸し人の記憶も曖昧になっていくなかでの回顧展の開催は大変な苦労を伴うものでありましたでしょう。それが資料館の方々の時間をかけての地道なご努力のおかげでこのたびの開催となったのです。

図らずも私の来旭と時が同じになり、私がお話しすることになりました。父からは至って散文的とつねづね言われていた私ですので文学的なことは何一つお話できませんが、日常生活の些細なことで思い出すことがらと、一寸鈴木家のルーツなどをお話したいと思っています。ずっと祖父母と三世代同居で私はおばあちゃん子でしたので、父の小さい時のことは祖母から聞かされていました。又祖父が筆まめで色々な出来事を和紙に毛筆で書き記した帳面が手元にありまして、割と正確な年月が辿れるのです。4条通りが草ぼうぼうの時に建てた家に住んでいた頃のことなどぼちぼちお話しようと思っています。

お暇がありましたら資料館にお運び頂き資料をご覧になり私の拙い話などお聞きくださいましたら望外の喜びです。

鈴木政輝の詩集
『帝國情緒』(右、昭 12 年刊)と
『雲雀の歌』(昭 55 年刊)

浅草バガボンド

浅草にバカボンド群が棲む。
歡樂の灯ちまたに渦巻かうと、
仲間はずれの孤獨の流人は哀愁だ。
無頼、立ち坊、乞食共に賣淫をする、
浮浪の女、無宿バアで悲慘な秋波を送る。
僕木馬館うらの闇にイみ、
警官に追い散らされる浮浪者を見る。

鈴木政輝詩集『帝國情緒』より

北 けんじ著

『じゃっくないふの閃き　鈴木政輝の詩精神』

石川 郁夫

昨年は、「下村保太郎展」に合わせて、北 けんじの『詩人 下村保太郎素描＋旭川茶房の歴史異聞―聖地巡礼』を出版、今回は、「鈴木政輝展」に合わせて、同じ北 けんじの『じゃっくないふの閃き 鈴木政輝の詩精神』を出版することにした。

下村保太郎と鈴木政輝は、大正から昭和にわたる旭川の詩の世界の中核に立つ二大巨峰と言っていい。

大雪山系詩人の草分けは、旭中生による「白楡」「楡」に始まると言われるが、その最も中核的詩人が鈴木政輝である。

だが、残念なことなのだが、鈴木政輝という詩人の名も、だから彼の作品も、彼が創出した詩的世界も、殆どの人達には知られていない。本質的には、これは鈴木政輝に限ることではなく、旭川の地で活躍した優れた詩人や作家についても同じことが言える。人々は、高名な誰かのお墨付きがあったり、華やかな賞を受けたり、商品として売り上げが伸びたり、といった文学の本質的な内容よりも、その外縁のストーリーに引かれるということなのだろう。彼の名は、華道・茶道の家元として知られているのかもしれない。

「円筒帽」での小熊秀雄や今野大力、大谷東策などとの交遊はもちろんだが、東京から家業を引継ぐために呼び戻されるまで、川端康成や萩原朔太郎などとの気ままな交流の中で、浅草バガボンドとして生きるのだが、実は彼の精神こそはバガボンドではなかったか。

「国詩評林」を活動の中心場面とした彼の詩業はアンソロジー『帝国情緒』一冊に集約されている。

序文に友人萩原朔太郎が書いている。

「詩人鈴木政輝君は、私の古い知己である。北海道に生まれたこの詩人は、気質的にも東北人一流の大陸的豪放性と、ロマンチックな理想的情熱をもった人物だった。・・・『帝国情緒』の諸詩篇は、すべて英雄主義の精神を高揚して、新しき日本の世界建設を主張している叙事詩（英雄詩）である。

与謝野鉄幹の『日本を去る歌』以来、私はこうした雄大精神の叙事詩を見たことがない」

北 けんじは、その鈴木の詩業と生きざまの一つ一つを丹念に資料にあたりながら拾いあげていて、それは大正から昭和の生き生きとした青春の姿を浮き彫りにしている。ぜひ一読をお願いしたい。

あぱあと

俺は疲れて帽子を釘に掛ける。
汗臭い襯衣（しゃつ）を脱いで顔を洗ふ。
瓦斯に火をつけて珈琲を沸かす。
俺は獨だ晩飯の支度をする。
馬鈴薯と玉葱ヂャック・ナイフで切り刻む。
俺はこのナイフで靴の泥を落した。
俺はこのナイフで波止場の纜（ろうふ）を断（き）った

悪青年

大望を抱く悪青年は悲しい。
山師と呼ばれ、不良、詐欺漢、悪黨と罵らる。
耐へ難い孤獨と憂鬱、寂寥感に、
自嘲しては僕ホテル裏の國際小路のくらがりで、
活辯、土方、兵隊、娼婦どもとジンをのむ！
世の敗殘者、不具者の家でジンをのむ！
わけへだてなく時代を語りジンをのむ！

鈴木政輝詩集『帝國情緒』より

～詩と絵～　花散りてまぼろし

詩人 東 延江展好評の裡に終了

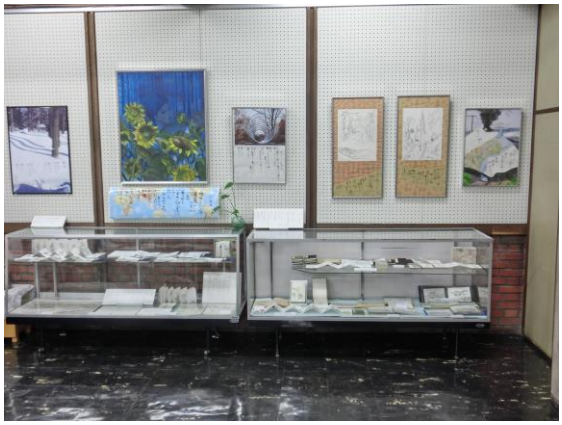
平成二十六年四月二日から五月三十一日

東 延江展を観て

木原 直彦

〈札幌〉

心安立てにノブエちゃんと呼んでいるが、その人の文学展が開かれているので札幌から参上した。案の定、会場いっぱい資料がギッシリである。彼女の多彩な活動からみて、さもありなんであるが、珍しいものや懐かしい多くの品々に出合って見あきなかった。



まず、本業の詩がいい。ことに幾つもの故郷を持つその風景のなかに人びとの記憶がいとしげに描かれていて気持ちが誘われる。それと対をなすのが、これもノブエちゃんの本領発揮である野の花を主体とした心やさしい情景（絵）だ。

作品が載った詩誌などの多様さにも驚かされたが、加えて写真パネルを眺めていて彼女の人脈の広さにいたく感じいった。そこにはぼくが知る人たちも多く写っていて、しばし、ありし日を偲び感慨にふけったものだ。

自ずと、ノブエちゃんの旭川文学史に関する業績にも思いがおよぶ。これは特出すべきことである。そして当然、そこにＮＰＯ法人旭川文学資料友の会（旭川文学資料館）のことがつながってゆく。この人、不思議なほど行動的なアイデアの持主だが、そのうちでも友の会運動が本命といってもいいであろう。多少なりとこの会のすじ道を承知しているつもりだが、久しぶりに訪ねて館内のアチコチを見学し、関わった人たちの、そのボランティアのすごさに舌を巻いた。北海道では室蘭文学館の会（港の文学館）と双璧をなす運動だが、全国的にみても誇るべき存在であって、何よりも、文学人が軸となって市民が強くバックアップしていることに感銘を受けた。

とにかく、すごい資料の山である。分類、整理をし、欠くことのできぬデーターの蓄積も着々と進んでいる。市民から提供の備品の数々のそのアンテイクさもまたほほえましい。

一巡し、それらの宝ものが旧青少年科学館を活用しているがゆえに迷路に迷い込んだような気分になるのも、なんとなくアットホームな気分だ。

外に出ると池と木々に囲まれた春の常磐公園が目に鮮やかで、旭川文学資料館はいい場所に建っているなあと思った。

リレーエッセイ

老いの探検

甲斐 千枝子

・圧雪を記憶する幹土を這ひ六月さくら花低く咲く
・五合目の群落さくら咲く今日の神々（カムイミンタラ）の遊ぶ庭の腰掛温む
・見のかぎり新緑に染む黒岳のリフト十五分下肢空（くう）を行く
・運ばれし七合目より仰ぐのみ黒岳頂上徒歩には老いて

旭川近辺に友人を誘うときは、事前に一人で探検する。五・六年前の道新に六月二十日頃黒岳五合目に桜が咲いたという記事が載り、何日か過ぎて出かけた。盛りが少し過ぎていたが、ムラサキツツジが咲きかけていて両方目にすることができた。短歌会の友人たちに来年はご一緒にと言っている間に私が腰を撲って、一年後に今度は捻ってしまって遠出の自信がなくなっていた。一年ほど使っていた杖がじゃまになり、万全ではないが歩いた方がよいように思えてきて、今年の黒岳のさくらは再び見ることができそうである。

東延江さんが幼少のころから、ご近所のコマヤ薬局のオジサンと呼んでいた松田一夫氏は、私共コスモス短歌会の支部長である。どんないきさつであったかおぼろになっているが、旭川文学資料館友の会の発足時にお手伝いしなさいと言われて週一度おじゃましていた。大した仕事もできずにいつのまにか八十歳になっていてご迷惑と思って退いた。あれから七年。元日生まれで満八十七歳かぞえ八十八歳で米寿だという。十代で戦時中に結核を患い、同級生が同病で亡くなっていたので言ってみれば想定外の命である。身辺の友人が次々とグループホームに入所するようになり、将来の自分の姿がみえてきた。いずれは家屋ごとハイキと思っているが、後始末をする弟妹達も容赦なく年輪を加えてゆく。長生きとはこういうことと思い知らされる。それでも断捨離が手つかずのままで、昨年探検した男山酒作り資料館前庭の「七夕の曲水の宴」を今年の八月には友人を誘って雅の世界を再びのぞいてみようと楽しみにしている。

川柳は楽し

沢栗　修二
〈旭川川柳社同人〉

旭川川柳社の創設者初代主幹・敦賀谷夢楽は（本名・健治郎、昭和三十年六月没）九条十一丁目本通左で敦賀谷行政書士事務所を営んでいた。（現在・登坂秀照行政書士事務所となっている）

昭和十一年五月創立、句誌『川柳あさひ』を創刊して七十八年を経、発刊八百十六号を迎えた。

故前主幹・大野信夫が著した市民文芸百年史から引けば、川柳社創設前の大正六年頃から川柳愛好同志が集い胎動の気運にあったことが窺える。

札幌を立ち上げた神尾三休が旭川に、前後して尾山夜半杖や田中五呂八等が移住。旭川隆盛の基盤を築いた。中央から川上三太郎を始め当時の六大家を招聘し、選者として名を連ね旭川の柳子を奮い立たせた。夢楽はこれら著名作家との交流を温め親交を深めた。没後の法要出席、句碑の揮毫などに及ぶ他その遺徳は多い。昭和三十一年六月四日、夢楽一周忌に記念句碑を上川神社境内に建立。記念句会にも著名氏多くが馳せ参じた。

『陽の露の　めぐみ柳の　芽が育ち』　夢楽

昭和四十九年、創設者夢楽を偲びその遺業を讃え『夢楽賞』を設置年度優秀作品を表彰している。

近年の受賞作品を紹介

22年　夢咲いて実って褪せて夫婦の樹　中橋花泉

23年　たくさんの涙溶かした海の色　斎藤郁子

24年　吸って吐くただ吸って吐く幸福度　斎藤郁子

25年　昭和史を開けば火の粉舞い上る　鎌田正勝

五七五の十七音字で醸す一行詩。

人生を讃え、生活を詠う。川柳の持つ楽しさに毎月二回、旭川川柳社の句会に仲間が集います。

旭川詩人クラブご案内

第29回旭川詩画展

期間　10月7日（火）～11月15日（土）

午前10時から午後4時迄

旭川文学資料館第二展示室

（休館日　月・日曜・祝日）

◉「講話」と「詩と遊ぼう」

○10月19日（日）

旭川文学資料館第二展示室

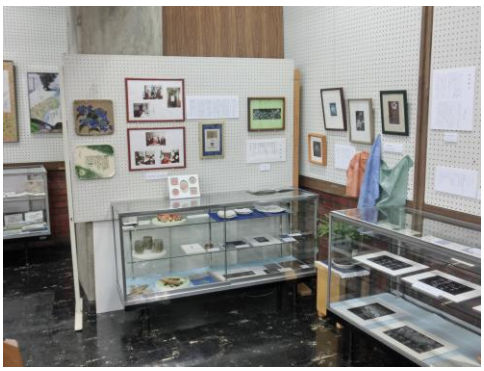
旭川詩人クラブでは今年も「講話」と「詩と遊ぼう」を開催します。**「講話」**は、会員の**荻野久子**さんが、**「父と俳句」**と題して、俳人だった父**荻野静峯**さんについてお話します。

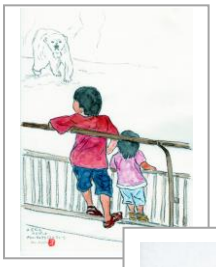
「詩と遊ぼう」は、グループに分かれて連詩を作り各グループが最後に発表します。初めて参加した方々から「楽しかった」との声が聞かれます。今年も開催致します。お誘いあわせのうえ多数のご参加をお待ちしています。

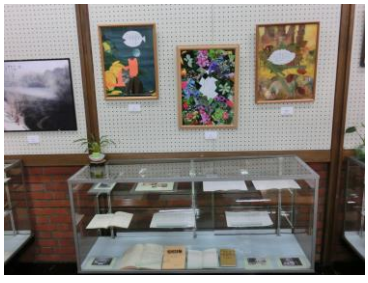
～詩と絵～　花散りてまぼろし

東 延江展盛会でした。

２０１４年４月８日から５月31日まで、旭川文学資料館において詩人クラブ会員の東 延江さんの詩人としての交遊録・詩・絵・染めなど多彩な分野での活動記録などを一堂に展示、訪れた多くの市民から感嘆の声が聞かれました。大好評の裡に終了致しました。







昨年の詩画展会場風景

お知らせ

この度、旭川文学資料館との共催事業の一つとして、旭川詩人クラブ会員による**「詩と遊ぼう」**というタイトルで、**毎月第四土曜日午後一時半から、旭川文学資料館交流室**において、会合をいたします。出席は自由ですので、都合のつく時に参加ください。

◉毎月第四土曜日午後一時半からです。

第一回は、富田正一会長の担当でスタートします。

尚、今年は、7月26日、8月23日、9月27日、10月25日、11月22です。友人を誘っての参加も大歓迎です。

事務局だより

【定期総会を開催】

平成二十六年五月十日午後一時半より、旭川市常磐館第二展示室にて平成二十六年度定期総会を開催。出席者三十三名、表決委任者九十一名。議長は三原一仁会員。議題は平成二十五年度事業報告及び決算報告、会計監査報告、平成二十六年度事業計画案及び予算案、新監事の選任。各議事異議なく承認されました。西川良子監事が都合により退任され、その後任として阿部清会員が新監事となりました。

【理事会を開催】

〔平成二十五年度 第四回〕

平成二十六年三月十八日午後二時半より、旭川市常磐館地階交流室にて開催。出席理事十四名、事務局等出席二名。審議事項は、井上靖記念館の指定管理者について(井上靖記念館の指定管理業務協定等、指定管理者関連規程)、平成二十六年度事業計画について、他。各議事異議なく承認されました。

〔平成二十六年度第一回〕

平成二十六年四月二十三日午後一時半より、旭川市常磐館地階交流室にて開催。出席理事十一名、表決委任理事四名、事務局等出席一名。審議事項は平成二十五年度事業報告、平成二十六年度事業計画、平成二十六年度定期総会について、他。各議事異議なく承認されました。

友の会・文学資料調査事務室・近況報告

収集・提供いただいた資料本の数々

昨年十二月から今年五月末まで、追加された資料の一部を紹介します。

文学資料調査事務室

沓澤　章俊

・ＮＨＫ旭川放送局編著『知らなかったこんな旭川』
・「旭川のふだん記」五十九号
・煙山一恵詩集『魂のうた』
・詩誌「コールサック」七十七、七十八号
・俳誌「氷原帯」七四九～七五四号
・俳誌「広軌」一～一〇〇号
・竹吉新一郎関係資料（写真、追悼記事ほか）
・戦前、戦後の少年雑誌
・斉藤傑『北海道を考える』
・『旭川新潟県人会　創立一〇〇年記念誌』
・斎藤郁子川柳句集『花一途』
・花輪墨雨関係資料
・『第一回・第二回　井上靖記念館青少年エッセーコンクール優秀作品集』
・俳誌「樅」二十七号
・松田光春『東鷹栖　鷹栖　分村記載録』
・俳誌「葦牙」「ＷＡ」「ロマネコンテ」
・新野チエ『人生九十年思い出すままに』
・室蘭文学館の会発行「文学通信」四十八号
・藤田愛(ちかし)氏撮影映像（古い旭川の映像）
・俳誌「樹氷」「源流」
・忠和中学校生徒会誌「白南風」二十五号
・文芸同人誌「ＰＥＴＡＮＵ」二十号
・上富良野町郷土をさぐる会機関誌「郷土をさぐる」三十一号
・『北北海道現代俳句』合同句集 第六集
・窪島誠一郎『詩人たちの絵』
・平成二十五年度合同句集『すずかけ句集』二十九集
・『大雪山から育まれる文献書誌集』
・石川郁夫『地平を抱く』
・『伊豆文学散歩』静岡文化・観光部文化学術局文化政策課発行
・宮崎二三子詩集『続・命　いまを重ねて』
・詩誌「文藝軌道」二〇一四年四月号。編集発行の代表は小熊秀雄賞受賞者の黒羽英二氏
・八重樫美代子歌集『霧華』
・「北海道経済」「メディアあさひかわ」
・北海道文学館発行『資料情報と研究二〇一三』。石井耕氏から受託された石井立氏旧蔵の小熊秀雄資料についての紹介あり(喜多香織学芸員筆)。石井立(たつ)氏は筑摩書房で中野重治や太宰治らを担当した編集者
・石川啄木記念館館報「石川啄木記念館だより」一号
・日本近代文學館館報「日本近代文學館」二五九号

その他、各文芸誌、各文学館館報等、多数寄贈いただきました。ありがとうございました。

また、今年三月に旭川ケーブルテレビ株式会社様より小熊秀雄関係資料十一点を寄贈いただきました。これまでにも平成二十三年に二点、二十四年に十六点の小熊秀雄関係資料を寄贈いただいています。以下、今回寄贈いただいた資料を紹介いたします。

・短歌雑誌「吾妹（わぎも）」五巻三号

昭和三年四月
獵人荘発行
小熊秀雄「生田蝶介「聖火燃ゆ」批評集」収載

・文芸誌「ツバサ」二号

昭和十二年十一月
上野書房発行
小熊秀雄・詩「鐵の魔女」収載
装丁・寺田政明

・機関誌「國本（こくほん）」

昭和五年八月
國本社発行
小熊秀雄「あいすくりーむ談」収載

・雑誌「九州文化」一巻二号

昭和九年九月
九州文化社発行
小熊秀雄「作家の二つの生活差に就いて」収載

・詩誌「日本詩壇」三巻七号

昭和十年七月
日本詩壇発行所発行
小熊秀雄・詩「闘牛師」収載

・文学雑誌「文學案内」一巻四号

昭和十年十月
文學案内社発行
小熊秀雄「叙事詩のつくり方（一）」収載

・文芸誌「月刊文章」三巻九号

昭和十二年八月
厚生閣発行
小熊秀雄・詩「月は地上を見てゐる」収載

・雑誌「セルパン」一〇三号

昭和十四年八月
第一書房発行
小熊秀雄・詩七篇「東京短信」収載

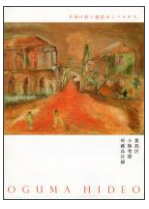
・雑誌「テアトロ」五巻六号

昭和十三年六月
テアトロ社発行
小熊秀雄「演劇の面白さの問題」収載

・大井廣介著『バカの一つおぼえ』

昭和三十二年四月
近代生活社発行
「晩年の小熊秀雄」ほか収載

・『豊島区　小熊秀雄所蔵品目録』



平成二十二年三月
豊島区発行
小熊秀雄の所蔵絵画作品紹介

友の会人事動向

（敬称略・かっこ内紹介者）

【新入会員】

大関法子／秋山幸恵・武山淳子・池田晴美（浅野留美子）／斉藤純子・久保田万里子（西勝洋一）／佐藤史倫／中村有秀／阿部清（水下寿代）／鳥谷部恒司（東延江）

【退会者】

寺西和子　金巻鎮雄　有川正子

【ご逝去】

二〇一三年十二月十日没　岡田繁勝様
二〇一三年十二月二十九日没　武田信義様
二〇一四年一月二十五日没　小森幸子　様

【現在会員数】　二〇二名　（六月十一日現在）